

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年2月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675800090
法人名	社会福祉法人 昭芳会
事業所名	グループホーム 芳明庵
所在地	鹿児島県始良郡湧水町般若寺358番地 (電話) 0995-75-4622
自己評価作成日	令和2年1月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成13年に開設され自然豊かな環境の中にあり、事業所のお風呂は温泉で利用者に大変喜ばれている。居室は全個室でトイレ、洗面所が設置しており、プライバシーに配慮しており、家族の方も宿泊できる十分なスペースがある。当初より利用者中心のケアに取り組み、社会福祉法人・昭芳会の理念である「生活主義」「五感主義」「より良く生きる」を基本としている。芳明庵は併設のつつはの園の職員と共通の認識の基で利用者を支えるシステムが出来ており、緊急時の対応や災害対策も一緒に取り組んでいる。

医療法人・昭芳会と共に在宅支援を強化しており入居後も変わらない支援を行っている。

職員は資格取得に側面から協力体制が出来ている他、研修会の参加や法人内の勉強会も積極的に行われ、個人の質の向上に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は同法人母体の特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどが隣接し、往き来しての交流や災害時の協力体制ができている。
- ・協力医療機関とは在宅支援を強化しており、敷地内施設の看護師との連携を図り、緊急時の対応などに適切な医療が受けられるよう支援している。
- ・地域の文化祭や運動会などに積極的に参加し、法人主催のイベントにも、多くの地域の人々や家族の参加があり、ともどもの交流の場となっている。さらに認知症についての相談にも対応するなど地域と交流を進めている。
- ・管理者や職員間のコミュニケーションが良く、些細なことでも気づきを大切にしている。また、職員の資格取得や研修に対しては、法人の支援体制を整備し、働きやすい職場環境である。
- ・職員は利用者個々人の体調管理や不安解消、安全対策などに努め、利用者が笑顔でその人らしい生活ができるように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	五感を感じていただく為に、玄関やリビング等に季節のしつらえをしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を玄関やリビング等に掲げ、パンフレットにも記載している。職員会議で唱和し、事業所全体の朝礼で再確認し、理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元の中学生や地域のボランティアの方達との交流を行っている。	小学校の運動会や地域の文化祭などの地域行事への参加や買い物の際には挨拶や会話を交わしたり、野菜をもらったりしている。中学生の職場体験学習、ボランティアの受け入れも行っている。法人のイベントには、多くの地域住民や家族の参加があり、日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議などで報告を行い、認知症の理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年に6回運営推進会議を開催している。ニュースレター等を活用し、状況報告を行っている。</p>	<p>会議は、定期的に行っている。事業所の状況やヒヤリハット・事故報告・外部評価結果報告などを行い、意見交換をしている。会議での情報を職員で共有してサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>入退居の報告や、事故報告を行っている。運営推進会議で状況報告や職員の研修報告、災害時の取り組みなども報告を行っている。</p>	<p>町担当者とは、窓口に出向いたり、電話で相談や情報交換を行い協力関係を築いている。運営推進会議を通して協力関係もできている。町主催やグループホーム協議会の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的(2ヶ月に1回)に身体拘束廃止委員会を開催し、朝のミーティング時に話し合いを行っている。日中は玄関や居室に施錠しない、開放的な環境で生活している。</p>	<p>身体拘束廃止委員会でマニュアルに沿って2ヶ月に1回、勉強会を実施している。対象となる事例検討などで職員の共通認識を図り、言葉による拘束も含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中の玄関の施錠はせず、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会で説明、研修を行っている。日頃から言葉遣いが虐待に繋がる恐れがないかを職員と一緒に考えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人全体で取り組み年1回勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用開始時に書面で時間をかけて説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月「芳明庵だより」と近状報告書、介護計画経過報告書を送付している。面会時に意見や要望を聞く機会を設けている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、家族からは面会や行事参加時、電話、運営推進会議が意見を聞く良い機会となっている。毎月、「芳明庵だより」と現状報告、介護計画経過報告書を送付している。日記や読書に興味があるなどの情報を職員で話し合い支援に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎週行われる法人全体の昼礼に理事長も参加され、話す機会がある。月1回の援助会議でも意見や提案を話し合う機会がある。</p>	<p>管理者は毎月の援助会議やミーティング、個人面談等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、相談事は個別に聞き適切にアドバイスしている。資格取得に関してはバックアップ体制が整っている。出された意見や提案などでリフト浴を取り入れるなど、反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回自分の目標を決めて自己評価を行っている。また向上心を上げる為、研修へ参加出来る機会がある。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修に参加出来るように、年間計画を立てている。他の法人との交換研修にも参加出来る機会がある。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に所属している。各支部の研修会などに出来る限り参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時のまるごとシートを作成して、家族・本人の要望を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に、困っていることや要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療と介護の連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者中心のケア、パーソンセンタードケアに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のニーズを家族と一緒に考えて家族に出来る協力を得て、本人の支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ユニット間での知り合いの方達と交流を行っている。また、散髪には馴染みの美容室へ行っている。	地元の利用者が多く入所している。友人・知人の訪問の際にはお茶を一緒に飲んだりしている。馴染みの理美容室の利用、手紙や年賀状、電話の取次ぎなども行って、継続的關係が途切れないよう支援している。家族の協力で外出や外食、法事、墓参、理美容院などに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	知人との関係を把握して、交流が持てるように、食堂・リビングの環境作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、運営推進会議に近隣住民代表として出席していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時や介護計画更新時に確認を行っている。情報・生活歴から本人の立場になって考えている。	入居時の「まるごとシート」を参考に、日々の関りの中で声をかけ、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は家族や職員で話し合い、利用者の視点に立って、本人中心に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の「まるごとシート」を利用して生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時に得ている情報から現状を把握してひとりひとりの過ごし方を考えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画者と職員で話し合いを持ちながら、情報を共有して介護計画を作成している。	本人・家族の意向を確認し、主治医の意見や職員の「ケース経過記録」等をもとに担当者会議で話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。モニタリングは毎月実施し、3ヶ月毎にプランに乗せ、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日頃の様子を記録して情報を共有し、実践を行い、介護計画作成に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>併設の介護施設の協力体制がある。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議などの地域資源の情報を得る機会があるが、運営に反映する事は少ない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>訪問診療を利用して医療機関と密に連携が取れている。</p>	<p>受診は本人及び家族の希望で、ほとんど協力医療機関が主治医となって、訪問診療を利用している。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は家族と共有している。緊急時の対応などに併設の介護施設の看護師との連携を取りながら、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	併設の介護施設の看護師の協力や在宅診療の看護師の協力がある。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	医療機関と密な連携があり、早期発見・対応が出来ている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	入居時に主治医と終末期について話し合い、重度化になった場合は面談を持ってニーズに沿った支援に取り組んでいる。	「重度化した場合の対応に係る指針」を基に説明し、同意書を得ている。状況変化に伴い家族の意向を確認し、主治医を交えて話し合い、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。看取りの事例もある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	医療機関や消防署の協力を得て救急時の対応を学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、併設の介護施設と協力して地震・火災の訓練を行っている。</p>	<p>併設している同法人の事業所と合同で、消防署立会いのもと年1回と、自主で年1回、火災と地震想定の日中夜間想定による避難訓練を実施している。スプリンクラーや緊急通報装置等も整備し、定期的に設備等の点検を実施している。地域の人々には協力の声掛けをしている。水、米、レトルトカレー、缶詰、ワカメスープ、さば缶、サンマ缶、コーンスープ、釜飯のもと、白かゆ、味噌汁の具、ふりかけ等を備蓄し、紙コップ、皿、ラップ、どんぶり、手拭き、歯磨きセット、ヘルメット、懐中電灯なども用意している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は個室で、トイレ・洗面所があり、プライバシー確保が出来ている。職員の言葉掛けも人格を尊重している。	接遇等の研修を実施し、職員の資質向上に取り組んでいる。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや入浴・入室などでは羞恥心に対する配慮を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分の意思を言い易い様に、言葉掛けに気をつけたり、工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースに合わせたその人らしい生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その人の生活歴を把握して、身だしなみが継続出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物や季節に応じた食事を提供し、食事が楽しみになるようにしている。利用者の現存機能を活かし、準備や片付けと一緒にやっている。	献立は、栄養士の助言を得ながら、旬の食材を使用し、利用者の嗜好や食事の形態に配慮して作成している。食事の下ごしらえや片付けなどを職員と一緒にしたりもしている。干し柿や梅シロップ作り、誕生祝い、季節の行事食、ソーメン流しなど、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量を記録している。バランスを考えた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の意思を尊重して口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄が出来るように支援している。	各居室にトイレが整備されている。排泄のパターンや習慣を把握して、必要に応じての声かけを行い、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。夜間帯も個別に排泄援助を行っている。リハビリパンツから布パンツに改善された事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事等を工夫しているが、排便が確認できない時は、下剤に頼るようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	個々に合わせた入浴を支援している。温泉でもあり湯に浸かれるように器具を揃えている。	入浴は基本的に週2日温泉浴で、個々人の体調や希望にそって柔軟に対応している。身体状況に応じてリフト浴、シャワー浴で対応するなど入浴を楽しめるように支援している。入浴日以外でも足浴や清拭を行い、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室になっている為その人に合わせて、灯りなど環境を整え安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書をファイルに個人別にとじて、いつでも確認出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	洗濯物畳みなど、現存機能を活かした役割を支援している。気分転換に敷地内の散歩をするなど支援している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	季節に沿った、花見などを支援している。家族の協力の元、自宅に帰られることもある。	日常的には周辺の散歩や外気浴、個別の希望で買い物に出かけている。計画を立て、季節の花見やドライブ、ソーメン流し、外食、地域の行事に出かけている。家族の協力で一時帰宅や外食、墓参などに外出している。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	本人と家族の話し合いで、お金の管理が出来る人は小遣い銭を持たれている。職員は、いつでも使えるよう支援している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	事業所の電話はいつでも使用出来る。利用者の中には携帯を持っており、家族と話をされる方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有の客間は、落ち着いた生活が出来よう工夫している。季節感を取り入れたしつらえを整え、居心地の良い生活ができるようにしている。</p>	<p>共用空間は広々として、開放感がある。神棚も設置している。金魚やメダカを飼育し、猫もいる。採光や換気、温度、湿度に配慮し清潔である。行事の写真や絵画、季節を大事にした飾りつけ、カレンダーなどを掲示し、ゆったりしたソファで居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングに気の合う利用者同士が一緒に過ごせる環境を作っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に本人・家族と相談して、馴染みのあるタンスなどの家具を持って来てもらい、居心地良く過ごせるようにしている。</p>	<p>居室にエアコンとベッドが備え付けである。洗面台とトイレのコーナーがあり、来客時もゆっくりしたスペースである。テレビやラジオ、時計、机、椅子、鏡、位牌、写真、ぬいぐるみ、本、新聞、家族の写真など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮してある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物外部の環境整備は法人全体で取り組んでいる。建物内は安全に生活できるよう環境を整えている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない